



10月1日U-18東京ブロックリーグ大会 vs 狛江高等学校マネージャーレポート

狛江高校は、身長が高い選手がいてリバウンドがよく取れていました。速攻が速く本校のディフェンスが追いついていない場面が多く見られました。

本校は、1人4ファウル、5ファウルが多くギリギリでプレーしていたので改善すべき点となりました。ファウルのせいでプレータイムが制限されてしまう可能性があるため、どのように接触を図るかなどファウルの基準を改めて確認し、減らしていけると良いと思います。ディフェンスは、手ではなく足を先に動かせるようにしたいです。ディフェンスの寄せなどあまり基準がなかったため、チームの中でこれはダメこれは良いなどを決めたほうが試合にアジャストしたディフェンスが、できるようになると思いました。そして、2戦、3戦の構えが遅いのがディフェンスの弱さに関わっていると思いました。トランジションを早くしないといけないうので、ファウルになるギリギリでつかないといけないうと思いました。パスミスも多かったです。コート内での話し合いがあまりなかったため、カバーやローテーションがあまりうまくいってなかったです。コミュニケーションをとれるようにしたほうが、いいと思いました。また、ゴール下のシュートを外している場面が多く見られました。これからは普段の練習から意識して、改善していくべき点だと思います。

ですが、相手のパス出しをカットしたり、ドリブルのスティールをしたりと、ナイスディフェンスができていたのは日頃の練習の成果が出ていると思いました。今回はパスを縦につないでシュートをするという、スムーズかつまとまりのあるプレーを多く見ることができました。

今回はディフェンスでの反省点が多かったですが、日頃の練習で行っているオフェンスの動きができていたので良かったです。新たな反省を生かして日々練習に励みます。